

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	道路管理課	
施策	26	都市基盤施設の維持・強化	評価 責任者	大坪 康宏	内線 2710
小施策	26-2	安全・快適な道路環境の向上	評価 シート 作成者	佐藤 雅春	内線 2772

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
道路については、老朽化による穴ぼこ等が増加し、事故が頻発しており、舗装等の損傷箇所の早期発見・対応が課題となっている。また、橋りょうについては、今後老朽化が急速に進行することから、安全性が問題になるとともに補修費用の増加が懸念される。一方、冬期間の安全な交通環境の確保においても融雪施設及び除雪機械の老朽化に伴う修理費の増加や高齢化に伴う市民協働による除排雪が課題となっている。通学路や生活道路においては、歩道の未整備の区間、急カーブ及び狭い幅員などにおける、安全確保が課題となっている。	緊急性、重要性、地域性などを十分に考慮しながら道路の新設や改良を行うとともに、効率的で適正な維持管理と橋りょうの計画的な修繕を進める。また、冬期間における道路の除排雪の充実を図るほか、歩行者の通行において特に危険な箇所や通学路を重点的に整備するなど、安全で快適な道路環境を確立する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(対象をどのようにしたいのか)
道路利用者	道路の整備及び適切な維持管理により、道路利用者の安全で快適な通行が確保され、道路環境の向上が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(平成30年度以降)
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① 市道改良率	%	↗	当初値 (H25) 73.9 H31目標値 74.8 H36目標値 75.7	・市道改良率が上がった。	・未舗装道路において、舗装を行ったことによる。	<p>★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討</p> <p>★ 市道の改良について、毎年舗装新設実績を積み重ねることにより、29年度実績で31年度の目標を達成することができており、事業は順調に推移していることから、このまま維持を図っていく。</p> <p>★ 予算確保については、「道路橋梁整備促進同盟会等事務事業」「道路対策協議会事務事業」において、国への要望活動を行い、交付金の安定的な予算確保につなげる。</p>
			・道路整備や橋りょう維持補修等の予算の安定的な確保。	・道路の整備や補修の要望が増加していることから、予算確保が難しくなっている。		
			問題点	問題の要因分析		
指標② 市道の除雪率	%	↗	当初値 (H25) 96.5 H31目標値 98.0 H36目標値 100.0	・市民要望を踏まえて除雪指定路線を延長した。	・要望箇所について必要性を検討し、延長分の予算及び除雪業務委託先を確保したため。	<p>★ 市道の除雪について、29年度は除雪率が下がったものの、基本的に市民要望を踏まえ、除雪延長は延びており、事業は順調に推移していると考えられることから、このまま維持を図っていく。</p> <p>★ オペレーターの高齢化等により、除雪の担い手確保が課題となっていることから、様々な工夫を行い、事業の維持を図っていく。</p> <p>★ 「雪対策協議会事務事業」において、国への要望活動を行い、交付金の安定的な予算確保につなげる。</p>
			・除雪指定路線を延長したが、市道除雪率は低下した。	・開発行為等による新規市道認定部分は、まだ住宅が張り付いていないこと等の要因から除雪路線に組み込まれなかったため、市道における除雪路線の割合が下がり、結果的に市道除雪率は低下した。		
			・除雪業者のオペレーターや地域の除雪協力者等いわゆる担い手確保が難しくなっている。	・除雪業者のオペレーターは新人確保が難しく、現役オペレーターは高齢化が進んでいる。高齢化社会の進行により、地域の除雪協力者の高齢化も進み、除雪の担い手確保が難しくなっている。		
			問題点	問題の要因分析		
指標③ 橋梁長寿命化修繕計画に基づき修繕工事を完了した橋梁数	橋	↗	当初値 (H25) 0 H31目標値 48 H36目標値 88	・29年度予算で、橋梁7橋の補修工事に着手し、うち2橋の補修工事は完了。繰越予算分の2橋と合せ、4橋の補修工事が完成した。	・橋梁長寿命化修繕計画に基づき、計画的に修繕を行ったことによる。	<p>★ 橋梁修繕計画について、優先順位をつけ、計画的に橋梁補修を行っている。事業は順調に推移していることから、このまま維持を図っていく。</p> <p>★ 予算確保については、「道路橋梁整備促進同盟会等事務事業」「道路対策協議会事務事業」において、国への要望活動を行い、交付金の安定的な予算確保につなげる。</p>
			・橋りょう維持補修等の予算の安定的な確保。	・橋梁補修工事の必要量が増加していることから、予算確保が難しくなっている。		
			・修繕計画改定の必要性が生じている。	・県への移管や他事業等での修繕実施により、H30の修繕目標が計画時点の40橋から8橋減少し、32橋となっていることから、橋梁修繕計画の改訂とともに、目標値の変更が必要となっている。		
			問題点	問題の要因分析		